

**主 題：新しい人生の力****聖書箇所：ローマ人への手紙 6章3、4節**

何十年も前のことですが、聖書の学び会に来られた方が「私はイエス・キリストの復活を信じる事が出来ない」と、そのように言われたことがありました。イエス・キリストが自分のために十字架で死んでくださったことは信じるけれど、復活は信じられないと言われるのです。確かに、死んだ人がその死からよみがえることは、常識的には信じがたいことと言えるでしょう。しかし、イエス・キリストはその死から敢然と肉体をもってよみがえられました。なぜ、このことが私たち信仰者にとって大切なのか？です。イエス・キリストの復活は、私たち信仰者の核心であり、また、土台であると言えます

今日、私たちはこの時間、復活が私たちにとってどれほど重要であるのかということを見ていきます。このことを通して、願わくは、ここにおられる皆さんが、今日を生きていくための希望をしっかりと持ってくださいを願います。なぜ、復活が重要なのかを学ぶことによって、あなたが今日生きる希望を持ってくださること、そのことを願って止みません。

**☆イエス・キリストの復活は、次の二つのことの確実性を保証する**

- ・私たちがキリスト者の希望
- ・私たちがキリスト者の力

順に見ていきましょう。

**A. キリスト者の希望**

これは何か淡い希望ではなく、「必ずそのようになる」という希望です。皆さんにお聞きしますが、私たちクリスチャンが持っている希望とは何ですか？確かに、いろいろな希望が聖書には記されていますが、少なくとも、私たちが持っている希望はイエスが言われたこと「**イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」**」(ヨハネ11:25)、これがクリスチャンに与えられた希望です。たとえ、この肉体が滅んでもそれで終わるのではなく、神とともに永遠を生きる、「死んでも生きる」という希望です。今、私たちがこの希望を持っているだけではありません。クリスチャンたちの歴史を振り返ってみると、その希望が彼らを信仰者として押し進めて来ました。どんな迫害の中にあっても、彼らはこの希望によってその信仰に立って歩み続けて行きました。至る所にその遺跡が残っています。

では、なぜ、このイエス・キリストの復活が希望の確実性を保証するのでしょうか？イエス・キリストがその死からよみがえって来たことによって、イエス・キリストが真の神であり、また、約束の救世主であることを証明されたからです。世の中に、また、歴史の中に、多くの宗教家、教祖と言われる人たちが存在します。しかし、イエス・キリストは宗教家でも教祖でもありませんでした。

**◎いったい、イエス・キリストはだれだったのか？****1. 主イエスの証言**

彼ご自身の証言を聞いてみる必要があります。いったい、彼は自分のことをだれだと人々の前で言われていたのか？ということです。

**1) 証言(1) : 「人となられた神・キリスト」であること**

イエス・キリストが十字架に架かる前、一まさに、私たちは先週その受難週を通して来ましたが、大祭司カヤパによって質問を受けています。マタイ26:63「…「私は、生ける神によって、あなたに命じます。あなたは神の子キリストなのか、どうか。その答えを言いなさい。」と、大祭司はイエスの答えを期待していました。でも、それを聞いて信じようとしたではありません。何とかイエス・キリストのうちに落ち度を見つけてイエス・キリストを処刑しようと願っていたのです。何をしても彼は処刑に値するような罪を犯していないので、それを見出すことはできません。それでこのような質問をイエスにぶつけるのです。「あなたは神の子キリストなのか、」と、「キリスト」とは「救世主、救い主」のことです。ですから、カヤパが聞いたことは「あなたは人となった神なのか？救い主なのか？」です。イエスはこう答えています。64節「…「あなたの言うとおりに。…」」、イエスはご自分が人となった神であり、そして、約束の救世主、キリストであると明言されたのです。

また、この出来事の前にも人々がイエスの話を聞いていた時、人々はイエスを石打ちにしようとしていました。石打ちはその当時ユダヤ人が取った処刑の方法の一つです。そのときにイエスは彼らに質問します。ヨハネ10:32「…「わたしは、父から出た多くの良いわざを、あなたがたに示しました。そのうちのどのわざのために、わたしを石打ちにしようとするのですか。」と、彼らはこのように答えています。33節「…

「良いわざのためにあなたを石打ちにするのではありません。冒涇のためです。あなたは人間でありながら、自分を神とするからです。」と。

これらのことが何を明らかにするのか？イエス・キリストご自身は、自分が人となった神であること、キリストであることをはっきりされたのです。イエス・キリストの証言を聞いていた者たちはイエスが言っていることを正しく理解したのです。イエスはご自分がだれであるかを隠しておられたのではありません。「わたしは人としてこの世に来た神である、創造主なる神である、全知全能の神である、唯一真の神である」と、そのことを明らかにされました。

## 2) 証言(2) : 「約束の救世主・キリスト」であること

同時に、約束されていたメシヤ、救世主であることを明らかにされました。実は、イエス・キリストは十字架に架かる前から、これから自分の身に何が起こるのかを弟子たちに話されていました。少なくとも、福音書の中には4個所に「この後わたしは殺されるけれど三日目によみがえる」ということを話しておられます。マタイ17:23「そして彼らに殺されるが、三日目によみがえります。」すると、彼らは非常に悲しんだ。」、マタイ20:19「そして、あざけり、むち打ち、十字架につけるため、異邦人に引き渡します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」、マルコ10:34「すると彼らはあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺します。しかし、人の子は三日の後に、よみがえります。」、ルカ18:33「彼らは人の子をむちで打ってから殺します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」。私たちに明日何が起こるのか予測することなどできません。イエス・キリストはこれから何が起こるのかをちゃんとご存じで、そのことを弟子たちに話しておられたのです。

この弟子たちに話された内容ですが、本来なら、ユダヤ人たちが、特に、ユダヤ教の教師たちがこの方は「約束されていた救世主だ」ということに気付くべきでした。なぜなら、旧約聖書には、私たち人間を救うためにこの世に来てくださる救い主についての記述があるからです。ダニエルという預言者はこのように言っています。ダニエル書9:26「その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。…」、殺されるということです。イザヤ書53:5にも「しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。…」と、殺されると書かれています。

ですから、確かに、救世主が来るということは創造の初めから神は人々に教えておられたのです。アダムとエバが罪を犯した後、救い主が来るということを教えておられました。そして、その救世主はどのように救いをもたらすのか？そのことも明らかにしておられます。救世主は殺される、しかし、殺されて終わるのではなく、その後よみがえると言います。詩篇16:10に「まことに、あなたは、私のたましいをよみに捨ておかず、あなたの聖徒に墓の穴をお見せにはなりません。」とあり、死んだままで留まらずそこからよみがえって来るということです。

ですから、イエスが「この後わたしは殺されるが、その後よみがえる」と話されたときに、これから実際に起こることを前もって言われたのですが、それだけでなく、このイエスこそ約束されていた救世主であることを明らかにされたのです。イエスはご自分が人となった神であること、そして、キリストであることを明確に人々に示されたのです。

## 2. 目撃者たちの証言

また、イエス・キリストの歩みを見ていた弟子たちも同じように証言します。

1) 弟子たち : ペテロはこのようにエルサレムで人々に語っています。使徒の働き2:24「しかし神は、この方を死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、ありえないからです。」、2:32「神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。」、3:15「いのちの君を殺しました。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。」、イエスはご自分がだれかを言われただけでなく、イエスを見て来た弟子たちはイエスが十字架で死ぬ姿を見ています。そして、実際に、その墓から三日後によみがえって来たイエスを彼らは見たのです。そして、彼らは人々の前でその証言をするのです。

パウロも同じように言います。Iコリント6:14「神は主をよみがえらせましたが、その御力によって私たちをもよみがえらせてくださいます。」、また、アグリッパ王の前でもこのように言っています。使徒26:23「すなわち、キリストは苦しみを受けること、また、死者の中からの復活によって、この民と異邦人とに最初に光を宣べ伝える、ということです。」と、イエス・キリストこそ約束の救世主であることを明らかにしたのです。また、コリント教会に宛てた手紙にこのように書いています。Iコリント15:3-8「:3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、:4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、:5 また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。:6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者も

いくらかいます。:7 その後、キリストはヤコブに現れ、それから使徒たち全部に現れました。:8 そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現れてくださいました。」、イエス・キリストはあなたがたの罪を負って十字架で死なれた、その後、墓に葬られた、そして、その墓から約束通り三日後によみがえって来た、そして、実際に私たちの前に現れて私たちはその姿を見た。その復活を目撃した者たちは「今なお生き残っていますが、」と言います。

ですから、このように弟子たちも、確かに、イエス・キリストは十字架で亡くなったけれど、その後よみがえったということを証明しました。皆さん、聖書が私たちに教えていることは、イエスが言われたように、彼は人となった神であり、そして、約束されていた救世主であること、そのすべてを証明した出来事がイエス・キリストの復活であったということです。イエス・キリストが十字架に架けられたときに、私たちすべての罪を負って身代わりとなって死なれました。そして、亡くなった後、今も墓の中にいるのなら、彼は救世主ではなかった。彼が言っておられたような「人となられた神」ではなかったのです。なぜなら、彼はこの死に打ち勝つことができなかつたからです。神は、私たちが造つただけでなく、いのちを与えてくださる方だからです。この自然界のいのちあるものすべて、そのいのちは神によって造られたのです。神はいのちの源です。イエス・キリストは確かに十字架に架かって死なれました。あなたのすべての罪を負って…。しかし、イエス・キリストは約束通りに三日後にその死からよみがえって来た。それによって、この方にはいのちがあること、この方がいのちの源であること、つまり、この方は神であることが明らかになったのです。

イエス・キリストは「人となられた神」であるとともに、私たち罪人を救うために、神が約束されていた救世主であると、そのすべてを証明したのがこの復活です。だから、私たちの信仰はこの復活に立っているのです。復活という事実があるから、私たちはイエス・キリストが神でありキリストであると信じるのです。ですから私たちの希望は、だれかから何かを聞いて心が慰められたからとそれにしがみついていてというのではなく、歴史的事実に基づいているのです。キリストは十字架で死んだ、そして、三日後に約束通り、その死からよみがえって来た。

確かに、今日私たちは復活祭ということでそのことをお祝しますが、なぜ、私たちは毎週集まって礼拝をささげているのか？イエス・キリストがよみがえったことを記念するからです。聖書が教えているように、週の初めの日にイエス・キリストがよみがえった、そのことを記念して私たちは何千年にも亘ってそのことを祝っているのです。このイエス・キリストの復活が私たちに「わたしがあなたに与える希望はただの希望ではない。確実にその通りになる。」という保証を私たちにもたすのです。皆さんがよく覚えておられるように、「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネ3:16)、「永遠のいのちを持つためである。」と、その約束を主は与えてくださったのです。そして、この約束が確実にだということ、間違いのない真実であるということ、イエス・キリストは十字架と復活で証明してくださったのです。

この十字架と復活がなぜ重要なのか？まさに、このイエス・キリストの復活は私たちの希望がただの希望で終わらないということ、確実にその通りになるということを保証するからです。

## B. キリスト者の力

イエス・キリストの復活は私たちクリスチャンに与えられた力を保証します。あなたには「力」が与えられていると、そのことを保証するのです。今日のテキスト、ローマ書6:3にこのように記されています。「それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたのではありませんか。」と。ここでパウロは「キリスト者」についての説明をしています。「キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちは」と書かれています。この「つく」という前置詞は「~の中へ」という意味です。ですから、「キリストの中へ」ということになります。この箇所が明らかにする「クリスチャンとはこういう人である」というクリスチャンの定義は、「キリストと結ばれた者たち、キリストと一つにされた者たち」ということです。言い変えるなら、「主イエス・キリストと特別な関係に入れられた者たち」です。

ヨハネ1:12に「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」とあります。人間は生まれながらにサタンの子どもですが、私たちはそこから生まれ変わって神の子どもとされたのです。そのような特別な関係です。パウロはこのように言っています。エペソ人への手紙2:12-13「:12 そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については外国人であり、この世にあつて望みもなく、神もない人たちでした。:13 しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスの中にあることにより、キリストの血によって近い者とされたのです。」、かつての私たちは神から遠く引き離されていた、神に背を向けて好き勝手な歩みをしてサタンを喜ばせる生き方をして来た。神から遠く離れていた私たちは神の一方的な恵みによ

って神に近いものとされたのです。今、私たちはこうして神に近づくことが許されています。聖い正しい神の前に立つことが許されています。それは、神が私たちの罪を赦してくださったからです。

それだけではありません。今、神はどこにおられるのか？信じた私たちのうちにおられます。聖霊なる神が内住してくださっているのです。そのような特別な関係に入れられたのです。

#### \*キリスト者とは、キリストと結合、一つとされた者

その証拠に、ローマ6：5にはこのように書かれています。「もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。」「つき合わされて」とは「連なる、結びつく」という意味です。ちょうど、枝が幹につながるようにです。私たちは主と結び合わされたということを使うのです。ヨハネ15：5のみことばを思い出しませんか？「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」。当然のことです。たくさんの実を実らせようと思うなら、その枝は幹につながってなければなりません。枝だけで実を実らせることはできません。私たちは幹である神につながったのです。神と一つにされたのです。そのことをパウロは私たちに教えるのです。ですから、まず覚えるべきことは、クリスチャンとはこのように神と特別な関係を持つ者とされたということです。その上で、パウロはそのことについてより詳しい説明を加えています。

#### ☆クリスチャンは神と特別な関係に入れられたことの説明

##### 1. 主イエスとともに死んだ者 3、4節

3節に「キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、」とあり、例外はありません。その後、「その死にあずかるバプテスマを受けたのではありませんか。」と続いています。確かに、私たちは神と特別な関係に入れられました。その上で、パウロは「どのような関係なのか？」を説明します。「イエス・キリストの死にあずかる」、つまり、イエスとともに「死んだ者」だと言うのです。そのことは4節でも説明します。「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。…」と。「葬られた」、なぜ、このことばが使われたのか？確実に死んだことを明らかにするからです。仮死状態にあるのではない、眠っているのではない、確実に死んだということです。2節にも「…罪に対して死んだ私たちが、…」とあり、3-23節には「死」ということばが16回も記されています。つまり、神と特別な関係に入れられたクリスチャンたちは、イエスが十字架で死んだように、あなたがたも「死んだ」ということです。

ガラテヤ2：20「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。…」、つまり、神に逆らい自分勝手に生きて来た私はもう死んだということです。神の敵として生きて来た私たちは、イエス・キリストとともに十字架に磔にしても死んだと言うのです。なぜなら、クリスチャンは新しく生まれ変わった者だからです。これまでと同じようには生きないのです。ローマ6：8「もし私たちがキリストとともに死んだのであれば、キリストとともに生きることもなる、と信じます。」、1ペテロ4：3にも「あなたがたは、異邦人たちがしたいと思っていることを行い、好色、情欲、酔酒、遊興、宴会騒ぎ、忌むべき偶像礼拝などにふけたものですが、それは過ぎ去った時で、もう十分です。」とある通りです。

##### 2. 主イエスとともによみがえった者 4節

私たちはイエスとともに死んだ者たちだと見ましたが、同時に、私たちはイエスとともに「よみがえった者たち」です。神の力によって生きる新しい人生！です。

##### 1) 主なる神の力 : どのように優れたものか？

そのことは4節に「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。」と書かれている通りです。続けて5-8節「:5 もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。:6 私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。:7 死んでしまった者は、罪から解放されているのです。:8 もし私たちがキリストとともに死んだのであれば、キリストとともに生きることもなる、と信じます。」、パウロは、クリスチャンは確かに神と特別な関係になった、これまでの神に逆らって来た自分は十字架で死んだ、そして、イエス・キリストがよみがえって来たように、私も新しくされて新しい人生を歩むためにイエスとともによみがえったと、そのことを言うのです。

##### ◎全能の力 : 4節「…御父の栄光によって…」

「栄光」ということばに目を留めてください。このことばは二つの意味を持っています。

##### (1) 神の無限の偉大さ、美しさ、完全さ、威厳を表わす

神がいかに偉大であるかを表わすことばです。エペソ 1 : 17 「どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。」

## (2) 神の全能の力を表わす

同時に、このことばは「神の全能の力」を表わします。当然のことです。神と呼ぶにふさわしい方に何かできないことがあるならそれは神ではないのです。どんなことでもできる、それが神です。ですから、この「栄光」が表すことは「神の全能の力」です。死にも勝る偉大な力をもっておられるお方です。たとえ、人間が立ち向かうことのできない「死」であっても、神にとっては障害でもない、どんなことでもできるのです。イエス・キリストはその死からよみがえられた、神にとってははいとも容易いことです。それほど神には力があるということを聖書は私たちに教えるのです。

2) 神の力による新しい歩み 4節 : その上で、4節「…それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあつて新しい歩みをするためです。」と、今度は私たちのことです。新しく生まれ変わった私たちに与えられたその力というのは、神がイエス・キリストを死からよみがえらせたその力であること、その力がまさに信仰者であるあなたに与えられていると、パウロはここで教えるのです。「いのちにあつて新しい歩みをするためです。」とありますが、これを原語に忠実に訳すと「いのちの新しい、生活の新しい、生き方の新しい」となります。パウロは救いに与ったあなたがたは今までとは異なる生き方をすることができる、それが可能になったと言います。それがクリスチャンたちだと言います。なぜですか？

### ◎キリスト者とは？

・「新しい心」が与えられた者 : イエス・キリストを信じることによって救われた人には、神は新しい心を与えてくれます。エゼキエル 36 : 26 に「あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。」と書かれています。つまり、救いというのは、神がその人の心を全く新しくしてくれるのです。心が新しくなるから、神のおきてに従って生きていくという、今まで全く関心のなかったことを行っていかうとすることです。エゼキエル書のその後 27 節には「わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行わせる。」とあります。つまり、救いは神が新しい心をごくださったゆえに、新しい願いをもって新しい歩みをしていかうとすることです。神が喜ばれることを為していかうと、そういう人へと造り変えられるのです。

・「新しく造られた者」 : II コリント 5 : 17 では「新しく造られた者」ということばでクリスチャンを表現しています。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」と。

・「新しく創造された者」 : また、私たちクリスチャンは神によって新しく造られた者です。ガラテヤ 6 : 15 「割礼を受けているか受けていないかは、大事なことはありません。大事なのは新しい創造です。」

・「新しい人」 : エペソ 4 : 23-24 「:23 またあなたがたが心の霊において新しくされ、:24 真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。」。コロサイ 3 : 10 にも「新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」とあります。

なぜ、このようなことを皆さんに話をしたかと言うと、ぜひ、皆さんに聖書が教えている救いを理解していただきたいからです。何度も学んで来たように、「私はただこれまで続けて来た生活をこれからも継続していきたい、ただし、死んでから先のことが不安になるから天国の切符を貰いたい」と、それは聖書が教える救いではないということです。聖書が教えている救いは、イエス・キリストを信じるその人を根底から生まれ変わらせるものです。その人を新しく造り変えるものです。新しい願いをもって生きる人へと生まれ変わっていくのです。

エペソ書 4 : 23 をご覧ください。「またあなたがたが心の霊において新しくされ、」とあります。先ほどから見てるように、救いに与るということはその人の心が新しくされること、神は心に働くのです。心に働かれることによって私たちには新しい考え方が出て来ます。考え方が変わるということです。私たちは正しい神が喜ばれる動機を持って生きていかうとすることです。そこから新しい神が喜ばれる行動が生まれて来るのです。私たちの問題は心なのです。なぜ、悪いことを考えるのか、悪いことを言うのか、悪いことをしたりするのか？すべての問題は生まれた環境ではありません。育って来た環境でもありません。私たちの心です。だれから教えられなくても皆そのような思いを持っています。私たちは子どもたちに「良い人間になりなさい。正しい人間になりなさい。」と教えなければいけない。なぜなら、私たちは生まれながらにそうではないからです。世の中の宗教は私たちの行動を変えてくれるかもしれませんが、心を変えることはできません。聖書が教えていることは、私たちを造ってくださった創造主なる神はあなたの心を変えるということです。心が変わられることによって、私たちには新しい心から

新しい考えが生まれて来ます。新しい願いが出て来ます。新しい動機をもって生きようとして。そして、そこから正しい行動が生まれて来るといことです。

ですから、こうしてパウロはみことばを通して私たちに、救いに与ることによって、心の霊によってあなたは新しくされると言います。イエス・キリストを信じて救いに与った人たちは神が喜ばれることをしていきたいという、今まで持っていなかった新しい願いを持って生きていこうという、そういう思いが自分の心の中に存在していることに気付くのです。

しかも、24節には「真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。」とあります。「かたどり造り出された」、つまり、救いというのは神があなたを新しく造り変えてくださるのですが、あなたを「神に似た者として」造ってくださるといのです。そのモデル、模写は「神」だと言うのです。神に似た者としてあなたを神は造り変えてくださるといのです。だから、聖霊なる神が与えられて、その聖霊なる神があなたのうちに始められる働きは、あなたを栄光から栄光へと主と同じ姿に変えていくことです。あなたは造り変えられたからです。Ⅱコリント3：18に「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」と書かれている通りです。

確かに、創世記を見た時に、神はアダムを神に似た者としてお造りになりました。完全な者として、罪のない完全な者として造られたのです。しかし、アダムが罪を犯すことによって、私たち人類も同じように罪ある者として生まれて来ます。しかし、イエス・キリストを信じることによって、罪の赦しをいただくことによって、私たちはもう一度新しく造り変えられるのです。そして、新しく造り変えられた私たちはイエス・キリストに似た者として神によって変えられていきます。そのことをこの24節で、「義と聖をもって神にかたどり造り出された、」と表現しているのです。これが私たちの聖書が教えてくれる救いなのです。皆さん、神はあなたを全く新しく造り変えてくださる。神に逆らって来たあなたを神に喜んで従う者へと造り変えてくださるのです。

もう一度テキストに戻ってください。神がこうして私たちを新しく造り変えてくださった。そして、神に似た者として造ってくださった神は、私たちをイエスに似た者へ変えていこうという働きを始めてくださった。その中であって、私たちが注意すべきことは何でしょう？

#### ◎造り変えられた私たちが注意すべきこととは？

ローマ6：2に「絶対にそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。」あります。「どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。」と、つまり、パウロは、もう私たちは罪から救い出された者、そんな私たちがどうして今までと同じ生活を行い続けることができるか？と言っているのです。クリスチャンである皆さんは、悲しいことに、イエスを信じた後も信じる前と同じ罪を犯す者です。そのことに皆さんはお気づきになっておられます。でも、何が変わったのか？罪を犯してもこれまでは別に抵抗もなかったし、まして神の前に罪を告白しようという思いもありませんでした。でも、イエスを信じることによって、今まで平気だったことに対して私たちは、神の前にこれは大きな罪だから神にそれを告白しようとしてします。当然、私たちは罪を犯さない人になりたいし、罪から完全に解放されたいと願っています。その日は来ます。栄光のからだは私たちに与えられたその時に私たちは罪と完全に永遠に決別するのです。しかし、その時までには罪との戦いがあります。同じ罪に敗北することが何回も繰り返されます。ですから、クリスチャンの生活を別の表現で表わすと、「クリスチャンとは日々自分の罪を神の前に告白しながら生きる者」と言えます。そうでしょうか？皆さん、そのようにして皆さんは生きておられるでしょう？罪から離れたいし、罪に100%勝利を得たいと思っていながら現実はそのようではない。でも、神はそのことをご存じです。ですから、私たちにその罪を告白して生きていきなさいと言われるのです。

ですから、新しく生まれ変わった者の特徴は、いつも神の前に自分の罪を告白しながら生きていく者です。そして、私たちは罪には敗北しても、今まで神に逆らって来た、神を悲しませて来た、そのような生き方を継続したいとは思いません。「なおもその中に生きていられるでしょう。」と、このように書かれています。「なおも」とは「依然として、今もなお」といことです。「生きていられるでしょう」は「生活する、暮らす」といことです。今までと同じように生きていくことはできない、心の中に抵抗があるのです。「罪から離れていきたい、神に喜ばれることをしたい」とい新しい願いを信仰者は神からいただいた者です。

皆さん、確かに、私たちは日々の生活の中で罪との戦いがあります。そして、罪に対する敗北を何回も何回も経験しています。でも皆さん、このローマ書6章でパウロが教えてくれていることは、あなたや私には神から力が与えられているといことです。あなたに与えられた力はどのような力なのか？それは、イエス・キリストの復活を見ればわかる。イエスを死者の中からよみがえらせたその力です。そ



の神の力があなたには与えられている。その力をもって私たちは新しい歩みを為していくことができるということです。

ですから、罪の告白だけでありません。私たちの歩みとは、みことばを通して神がこう生きなさいと言われたことに対して「わかりました、神さま。そのように生きていきますから助けてください。」、「神さま、あなたが望んでおられることがわかりました。そのように私は生きていきますから助けてください。」と、そうして主のみこころに従う決心をし、それを可能にしてくださるこの神の力をいただきながら生きていくのです。これが私たち信仰者の生き方です。

ちょうど、主イエス・キリストがよみがえった後、ルカの福音書に書かれていますが、エマオ途上の二人の弟子がイエスと時間を過ごしています。そして、その後、彼らは自分たちといっしょにいた方がイエスだと気付いた後、エルサレムに飛んで帰ります。エルサレムから西の方にだいたい11キロほど離れた所からです。エルサレムに帰った彼らは11人の弟子たちと仲間たちと時間を過ごします。悲しいことに、イエスの弟子たちはイエスからメッセージを聞いていたにもかかわらず、実際に、イエスがよみがえった時にそれを信じることはできませんでした。女たちが墓に行つてイエスがよみがえったと告げても使徒たちは信じることはできなかつた。イエスから直接メッセージを聞いていたのに彼らはそれを受け入れることができなかつた。ちょうど、この11人の使徒たちが集まって、また、仲間たちが集まった時にイエスが現われて、ルカ24：45からこのように書かれています。「:45 そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、:46 こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。」、イエス・キリストは忍耐をもって使徒たちに繰り返し繰り返し、ご自分が人となった神であり、約束の救世主であることをお話しになったのです。すぐには悟らなかつた彼らも徐々にそのことを確信するようになるのです。そして、彼らはその確信に至った時に、神は彼らに何を命じられたのか？この救いがエルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられていくと、そしてこう言います。48節「あなたがたは、これらのことの証人です。」と。

彼らが証人として、キリストの証し人として出て行くために彼らに必要なのは、神のことばを信じることでした。イエスがよみがえることによって、神が言われたことは必ずそうなるという確信をもたらしました。そして今、その確信に達した彼らに対して、「では、いいですか。出て行きなさい。出て行ってこのすばらしい救いを知らないで神に逆らいながら永遠の地獄に向かっている人たちに、救いがあることを伝えなさい。」と言われたのです。神は救いをもたらしてくれます。神はその人を新しく造り変えてくれます。その救いがあるからそのメッセージをあなたが語るのだと言われます。

このメッセージを聞いた後彼らは、ルカ24：52、53「:52 彼らは、非常な喜びを抱いてエルサレムに帰り、:53 いつも宮にいて神をほめたたえていた。」と、このようにルカは締め括っています。彼らは喜んだのです、なぜか？死に打ち勝ち、その死からよみがえった神がいつも自分たちとともにいるからです。私たちは死んで終わらない、この神とともに地上にいても、そして、永遠とともに過ごすからです。その神が私たちに復活のその力を与えてくださったからです。神がともにいて、そのともにいてくださる神はイエスをよみがえらせた方であり、そして、その方が私たちに務めをくださった。しかも、その務めを私たちがこの神の力をもって為すことができるのです。だから、彼らは喜んだのです。神に使っていただけることを喜んだのです。

**結論**： この「永遠のいのち」という希望も、また、「新しい人生の力」も主ご自身が与えてくださるもの。そして、「主イエスの復活」をもって証明された主の力が、私たちには与えられている。そのことを証明したのが「主イエスの復活」である。だから、信仰の土台なのである。そして、私たちにも、キリスト者としてふさわしい人生を生きるための力が与えられている！

信仰者の皆さん、あなたはいかがですか？イエス・キリストの復活というのは歴史上の事実であり、そして、その復活によって人々は変わっていき、世界は変わったのです。そして、あなたはその祝福に与った、何を神があなたに期待しておられるのかがお分かりになるでしょう？この福音のメッセージをあなたが語っていくことです。救いはあるのです。救いは与えられるのです。そのことを語るのはその救いに与ったあなたです。福音のメッセージを携えてこのイエス・キリストは私たちの罪を赦すために来てくださった唯一真の救い主であることを、救いをいただいたあなたが語ることです。どうか、主の助けを仰ぎながらその務めをしっかりと為していきましょう。